

**担任の保育者との関係や遊びへの取り組み方はさまざまである。**

砂場の近くで A 児が干からびたミズを見つけたことがきっかけとなり、保育者が「このへんにいないかな?」と口にしながら、保育室西側坂道でミズを探すことをやんわりと提案する。それを受けてそれぞれ、以下のような姿を見せていた。

A 児: はじめはミズを探したい→目についたものに興味に移る。

保育者が土を掘るためにスコップを持ってきたのを見て、おたまと△の砂場カップを持って来る。だが、坂の先に足こぎ車や三輪車を見つけて乗りに行く。時折、T の近くに帰って来るが、やはり乗り物に乗ったり土手を登ったりと、その都度興味をもったところに関わる。

B 児: ミズを探したい。

生き物に興味がある B 児は、土を掘ってはミズを探している。途中で見つけたダンゴムシも2匹ほど手に持って見ている。

C 児: 先生のそばにいたい。

自分のしたいことが今日はまだ見つからないのか、保育者と同じようにスコップを持って葉っぱを避けたり土を掘ったり、保育者が動くときぴったりくっつくように自分も動く。あとから「先生のお膝に座りたい」と話す。

D 児: 先生といたい。

砂と水を使って遊んでいたが、保育者が西側坂道に動くときついてきた。保育者が「ダンゴムシいたよ」と見せても触ろうとしない。保育者の背中に体重をかけてくっついていく。

タンポポの綿毛を見つけたときには、「“ふ〜”（綿毛のこと）あった」とうれしそうに保育者に話し、ちぎって見せる。

E 児: 砂場で遊びたい。 保育者と他児がその場を離れても、一人砂場で遊んでいる。



**受容性**

それぞれの思いを受け止められていることを感じ、安心してしながら過ごしてほしい

**多様性**

偶然の出会いの中で、いろいろな生き物や草花に触れたり、その面白さを感じたりしてほしい



**公平性**

どの子どものことも受け入れながら、応答的に、大切に関わってほしい

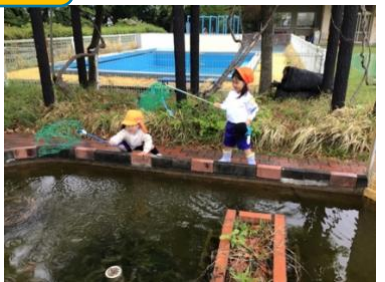
- A 児・目についたものをやってみようとする（進んで参加する態度）
- B 児・園内にいる身近な虫や生き物へ興味や関心をもつ（つながりを尊重する態度）
  - ・保育者が誘いかけたことに気持ちを向ける（他者と協力する態度）
- C 児・先生のすぐ近くで同じような物を持ったり同じようなことをしたりして安心したり、保育者との繋がりを持とうとしたりする（他者と協力する態度・つながりを尊重する態度）
- D 児・先生と肌で触れ合いながら同じ場にいることで安心しようとする
  - （他者と協力する態度・つながりを尊重する態度）
- E 児・保育者や他児が離れた場においても、自分のしたいことをする（進んで参加する態度）

**楽しかったことを思い出して、日をまたいで何度もすることが楽しくなってきたようだ。**

年長児が池で魚つりをしているところに出くわした。A 児と B 児は自分たちも、クラスにある網（担任が渡した）を池に入れて遊びだした。遊んでいるうちに、年長児が使っている柄の長い網も借りて、何度も池に網を出し入れしていた。

———次の日———

A 児ははじめ、「うさぎにご飯あげる」と戸外に出たが、池が目に入ったのか、すーっと池のほうに行き、そのまま年長組の保育室のほうへ行く（池の隣が年長組保育室）。年長組の保育者に網の場所を聞き、自分で長い網（前日に年長児から借りていた長い網と同じ）を選び取ってくる。B 児も A 児の姿を見て網を取ってくる。



**受容性**

園内ではどこでも受け入れてもらえることを感じてほしい

**多様性**

身近にいるいろいろな生き物にも出会ってほしい



- ・前日にして楽しかったことを、その場や友達の姿を見て思い出し、またやろうとする（進んで参加する態度）
- ・前日に一緒に魚釣りをしたお兄ちゃんお姉ちゃんがいるかもしれない場所に行く（なんとなく、年長組クラスカラーの黄色が目にはいった？）
  - （進んで参加する態度）
- ・その場で教えてくれそうな大人（年長組の保育者）に聞く
  - （コミュニケーションを行う力）

短い時間だが保育者がその場にいることで、数人で同じような遊びを楽しむ姿も見られるようになってくる。

前日(5月10日)の親子登園で『おふねはぎっちらこ』のふれあい遊びをした。保護者の膝の上に乗せてもらい、歌に合わせて揺れたり、保育者の「大波がきた」の声に合わせて保護者が大きく揺らしたりして遊んだ。

A 児がクッションを船に見立てて乗ったことがきっかけで、お船に乗る遊びが始まった。A 児と B 児はクッションの上に座り、保育者に対して手を伸ばし繋ぐと、B 児は A 児に対しても「あなたと」と手を伸ばし、3 人で輪になるように手を繋ぐ。「お～ふ～ね～はぎっちらこ～♪」と歌いながら揺れたり、A 児は「みんなで乗ろう、1・2・3♪」と自作のメロディで歌ったりしている。C 児は保育者の近くで3人の様子を見たり、保育者に体を寄せたりしているが、ハの字眉毛で表情はかたい。歌が終わったところで、A 児が「おっと、大波が来ました!」と言う。それに対して保育者が「大変!大波がきました」と反応すると、3人で手を繋いで大きく揺れる。保育者が前日に親子で遊んだときと同じように、「大丈夫?落ちてない?ああ良かった。」と言うと、A 児が再び「おっと、大波が来ました」と嬉しそうに言う。

その後も大波が来ては揺れたり、クッションから落ちるように倒れたりして繰り返し遊んでいると、D 児も E 児も「D ちゃんも!」「E も、お・ふ・ね、のる!」とやってくる。保育者がクッションを持って来て「乗る人どうぞ」と渡し、C 児にも「C ちゃん乗る?」と聞くと C 児は「いや」と答える。「先生と乗る?」と聞くと「うん」と答えるので、「おいで」と誘うと近くに寄るが、誘いには応じずそばで立っている。

D 児はクッションに座ると、保育者に対して手を伸ばし、手をつなごうとする。手を繋いで「おふね～はぎっちらこ…ぎっちらこ…な～みに…♪」歌って揺れていると、A 児が再び「大波きました」と言う。保育者は「大波がきたって!大変!大変だ!どお～あああ～」激しく揺れる。すると、A 児 B 児 E 児も嬉しそうに激しく揺れる。C 児は保育者の顔を覗き込みに来る。その後しばらく、クッションの上に乗って揺れては誰かが「大波がきました」と言う、激しく揺れたり、落ちるように倒れ込んだりすることを繰り返し楽しむ。またしようと他児が起き上がってくるが、D 児が倒れ込んだまま動かない。保育者が「あ～あ～、D ちゃんが!大丈夫?」と近寄ろうとすると、A 児と B 児が保育者より先に D 児のところに行き、助けるような素振りをし、D 児が起き上がる。さらに「大波がきました」と子どもが言ったことに応じて保育者が倒れ込み、「C ちゃん、助けて～!」と手を伸ばすと C 児は求めに応じて保育者の手を引き、E 児も同じように保育者の手を引こうとやって来る。B 児、D 児は保育者の背中を押しながらを起こそうとする。



#### 受容性

それぞれの思いを受け止められていることを感じながら過ごしてほしい



#### 公平性

どの子どもとも受け入れながら、応答的に、大切に関わっていききたい

#### 相互性

関わり合うから遊びがよりおもしろくなることを感じてほしい

#### 連携性

遊びの中で自然と受け入れあっていってほしい

- ・保育者が遊びの場にいることで、他児がしていることがわかる  
(コミュニケーションを行う力)
- ・保育者や他児がしていることを面白そうと思い、自分もやってみようとする  
(進んで参加する態度・つながりを尊重する態度)

保育者や保育室に対して「自分の先生」や「自分の部屋」という認識があり、それを拠点としながら園生活を送るようになる。

自分もしようとする姿が少しずつ見られるようになってくる。

A 児の慣らし保育初日。4, 5 月の親子登園や個人懇談、園庭開放などで本児と母と担任で遊んだ。そのときの様子から、母と離れることに強い不安が他児以上にあることや、目についたものに興味を惹かれて園内を動き回ることを予想していた。登園後、母がいないことで「ママいない」「ママ探す」と保育者の手をひいたり、1人で正門まで行ったりする。その都度、保育者が「今日は先生と遊ぼう」「ママ絶対お迎えくるよ」と伝えると、保育室付近に戻って遊ぶ。近くの他児がしている水遊びが目に入ると、A 児も同じようにしばらく遊ぶ。全身が濡れたことで、保育者が着替えに誘うとすんなり応じる。着替える場所を知らせたり、脱ぐ時に「この服脱ぐよ」など声をかけながらしていると、A 児も協力的な動作をとって着替える。着替えを終えると、自分で選んだ絵本を保育者のもとに持って来て、膝に座って一緒に楽しむ。

- ・保育者を頼りにする  
(コミュニケーションを行う力)
- ・保育者の誘いに応じてやってみようとする  
(コミュニケーションを行う力)

**受容性**

A 児の不安も受け止めながら、りす組や保育者に受け入れられていることを感じて欲しい

